

令和2年度第2回 聖籠町総合計画審議会 議事要旨

日 時 令和2年11月16日(月) 10:00~12:00
場 所 聖籠町役場3階 大会議室
出席委員 鷺見委員(会長)、佐藤委員(副会長)、横井委員、萩原委員、手嶋委員、
臼井委員、樋口委員、木戸委員、斉藤委員、本田委員、阿部委員、金山委員、
安尻委員、石坂委員、宮下委員、本間(栄)委員、小黑委員、神田委員、石橋
委員、小林委員、本間(敬)委員
聖籠町 高松副町長
全体事務局 高橋課長、小林課長補佐、高橋主事、横山主事、大久保主事
部会事務局 安心安全部会事務局、福祉部会事務局、教育文化部会事務局、産業観光部会事
務局、行財政部会事務局

次 第:

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 部会の報告について
 - (2) 施策等の全体調整について
 - (3) 今後のスケジュールについて
 - (4) その他
- 3 閉会

6 議事

(1) 部会の報告について

事務局 資料1に沿って説明
委 員 (安心安全部会の報告)

現在の計画の評価として、施策目標・主要事業の評価、現状計画の進捗状況・課題を把握し、今後の方向性と施策目標を検討し、各分野において計画不足となっている事業や施策の方向をまとめた。

委 員 再生可能エネルギーの開発の推進については触れられていないが、9ページの5環境保全対策の充実に地球温暖化が出ている。どの様に考えているか。

生活環境課 再生可能エネルギーについては、民間による開発が大きいところであるので、掘り下げた検討はしていない。ただ、地球温暖化に対して有効な手段なので、計画の中で触れた方がよければ、記述を入れたいと思う。

会 長 最近では県でも再生可能エネルギーの議論がされている。これからの期間の中で、再生可能エネルギーを使った環境負荷を与えないエネ

ルギー消費のしかたも重要なテーマになってくると思う。何か検討ができそうであれば、今後ご提示いただきたい。

委 員 (福祉部会の報告)

福祉部会では、大きく3つの視点から検討を行った。1つは、委員同士でのディスカッション。2つ目は、介護保険や障がい者福祉、地域福祉の計画策定が同時進行しており、部会の中では、各計画でどういところが問題になっているのか、各計画でのアンケート結果の特徴などを話しながら審議を進めた。3つ目は、第4次の総合計画の総括見直し。

第5次においては、幸せな暮らしの実現に向けて、チャレンジしていく10年にしたいという所を部会の共通認識とし、住民誰もがその人らしい暮らしを追及していくことを重視するとした。

苦労した点は、本論の中では、現状と課題、基本方針、主要事業と分かれているが、この関連性をどう持っていくかというところ。今後の課題としては、10年計画であるので、具体化をどう進めるか、各福祉計画との関連性を見ながら施策の主要目標のPDCAサイクルをどう回すかというところをもう少し詰める必要があると考えている。

委 員 現在のコロナ感染症について全く触れていないが、今後の10年間においても想定されることなので、その辺は議論したのか。

保健福祉課 基本計画の47ページ(4)に「聖籠町新型インフルエンザ等対策行動計画」というものがあるが、それをコロナにも対応した内容に見直すことを考えている。

委 員 具体的にコロナの名称を出して触れた方がいいと思う。

会 長 今足元で起こっていること、今後どうなるか分からないことをまずは対応してもらうことが、住民の皆さんの安心につながっていくと思うので、検討をお願いしたい。

委 員 (教育文化部会の報告)

第5次では施策の大綱を5本の柱とし、きちんと指標を示した上で、より具体的に5年後10年後の目標の達成をチェックできるようにした。

部会では、10年先の聖籠町の教育文化がどうあってほしいか話し合い、ICTに関する技術を付けながら、必要な知識を与えていくためにカリキュラムなど町としてどういった支援ができるかということを検討した。また、家庭の教育力が低下していることに対して、地域が、子どもたちをどう育てていけるか、家庭を支援していけるか、また、学校とどう連携していけるかということを話し合った。子ども達が聖籠町で育ったことに誇りを持てること、また、大人になって外に

出て行くのではなく、戻って来てくれるような基盤を作るとして施策を考えた。

委 員 総合計画というからには、文言などで部会ごとにつながりが見えて来なければ、統一性が取れないのではと思った。登下校の安全対策に関しては、教育文化部会と安心安全部会でつながりがある。ウイルス感染症については、教育と福祉、子ども達の学校での障害については福祉と教育など。今は部門ごとに完結しているところがあるので、もっと連携を強化して、部会同士でつながりを持たせることが重要だと思った。

会 長 それぞれの部会が独立して話しをしている感じがある。総合と言いながら、縦割りになっているというご指摘だが、そうならないように改善していきたい。

会 長 IoT 社会という言葉について、IoT はとても狭い話だと思うが、もっと大きな意味で使用しているのか。

子ども教育課 狭い意味では用いず、モノだけではなくインターネットを経由して全て通信するという意味で使用している。

会 長 大きな柱のところで IoT という言葉を使うと誤解を受けるのではないかと思う。もう一度部会で検討してみしてほしい。

会 長 最終的に 5 年後に評価をするとなったときに、最初にきちんと評価できるような指標を設定しておくとか、設定のプロセスが作りこまれていないと、どういう意味での評価になっているか分からないという議論を部会でした。例えば、安心安全部会の「要請回数」というのがあったが、施策目標が安心安全につながっていくところまで考えて見直してもらいたい。

また、平均を下回るという目標については、他力本願なところがある。入場者数や来場者数についても何人まで増えれば、町民の安心や安全、幸せにつながっていくのか分からないという問題が 5 年後に出てくると思う。目標はそれを意識して設定してほしい。

委 員 前回会議での報告によると、聖籠町に戻って来ようという人が少なくなっていて、若者の問題が気になっている。あるアンケートの回答を見ると、町内に 18 ある介護事業者のうち 13 事業者が、人材の確保で少し困難が出てきていると訴えている。教育の部分でも奨学金の対策があるので、福祉部会では、現場の人材確保の困難性を支援していけるかというところを、連携して検討できればと思っている。総合計画の全体を見たときに、町の課題となっている、若者への支援が明確に出ていないので、もう少し議論してもいいと思った。

また、新型コロナウイルスに関しての内容を柱に据えるのであれば、総合計画全体に関わってくるので、ウィズコロナ、アフターコロ

ナ時代の総合計画として意味づけてもらえれば、部会としても書きやすい。

会 長

そういう意識も計画の中に入れるということで事務局と相談させてもらいたい。

(文責 総合計画審議会事務局 事後修正する場合があります。)